

平成 20 年 (2008 年) 告示

学習指導要領新旧対照表

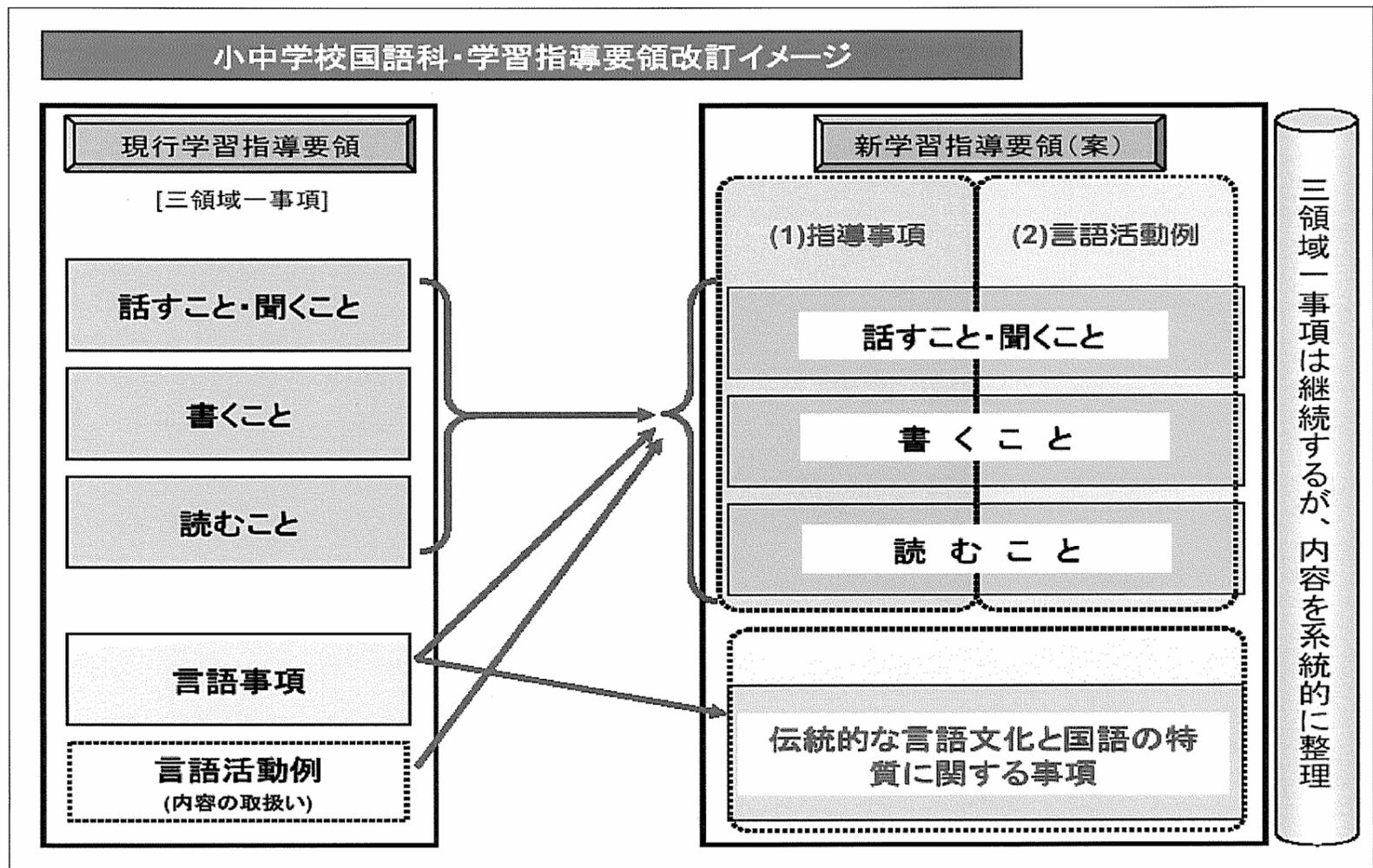
小学校 国語

- 学習指導要領改訂のポイント
- 学習指導要領新旧対照表

※この冊子は、平成 20 年 (2008 年) 3 月 28 日に文部科学省が告示した学習指導要領をもとに作成しています。



「小学校国語」改訂のポイント



■主な改訂点

- ・言語力育成の中核を担う教科として、生活や学習に必要な能力を身に付けるため、記録、報告、解説、推薦などの言語活動を充実（言語活動例を「内容の取扱い」から「内容」に格上げし、記述の具体化）。
- ・話題や取材、交流などの指導事項を新たに定め、指導のプロセスをより明確化。
- ・ことわざ、故事成語、神話、伝承、古文・漢文の音読など古典に関する指導を充実。

(1) 学習内容の改善・充実

① 構成の見直し

- ◎ 話す・聞く、書く、読むの各能力が確実に身に付くよう、記録、報告、解説、推薦などの言語活動例を「内容の取扱い」から「内容」に移行。
- ◎ 伝統的な言語文化、言葉の特徴やきまり、漢字、書写から構成される〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を新設。

② 話すこと・聞くこと

- ◎ 話題や取材についての指導事項の新設(1～6学年)
- ◎ 「言葉の抑揚や強弱などに注意して話すこと」(3・4学年)【H 元年】
- ◎ 「事物や人物を推薦すること」(言語活動, 5・6学年)

③ 書くこと

- ◎ 交流についての指導事項の新設(1～6学年)
- ◎ 「報告する文章や記録する文章を書くこと」(言語活動, 1・2学年)

④ 読むこと

- ◎ 交流についての指導事項の新設(1～6学年)
- ◎ 本や文章を選ぶことについての指導を明記(1～6学年)
- ◎ 「説明した文章を読むこと」(言語活動, 1・2学年)
- ◎ 「解説の文章を利用すること」(言語活動, 5・6学年)

⑤ 伝統的な言語文化と国語の特質

- ◎ 【古典】 ことわざ、故事成語、伝説、古文・漢文の音読など古典に関する指導を充実。
- ◎ 【漢字】 学年別漢字配当表以外の漢字の提示には、振り仮名を付けるなど、漢字を読む機会を充実（交ぜ書き→ルビ付き表記へ）。書きについては、文や文章の中で使えるよう、指導を充実。
- ◎ 【ローマ字】 現行の4学年から3学年に移行。

(2) 言語力の育成・活用の重視

- ◎ 記録、報告、解説、推薦などの言語活動を重視。

(文科省HP「新しい学習指導要領」ページをもとに作成)

小学校学習指導要領新旧対照表

【凡例】 _____：変更・新設 (削除)：削除事項 (新設)：新設事項 (移動)：移動事項 吹き出し：補足説明

改 訂	現 行
第1節 国 語	第1節 国 語
<p>第1 目 標</p> <p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 相手に応じ、<u>身近なこと</u>などについて、事柄の順序を考えながら話す<u>能力</u>、<u>大事なことを落とさないように聞く能力</u>、<u>話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度</u>を育てる。</p> <p>(2) 経験したことや想像したことなどについて、<u>順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度</u>を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに<u>気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度</u>を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>(新設)</p> <p>ア <u>身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。</u></p> <p style="text-align: center;">(移動)【言語事項】(1)ーオー(7) から</p> <p>イ <u>相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。</u></p> <p style="text-align: center;">(移動)【言語事項】(1)ーアー(7) から</p> <p>ウ <u>姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。</u></p> <p>エ <u>大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</u></p> <p>オ <u>互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。</u></p> <p style="text-align: center;">(移動) 3 内容の取扱い(1)「A話すこと・聞くこと」から</p> <p>(2) (1)に示す事項については、例えば、<u>次のような言語活動を通して指導するものとする。</u></p> <p>(新設)</p> <p>ア <u>事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。</u></p> <p>イ <u>尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。</u></p> <p>(新設)</p> <p>ウ <u>場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりすること。</u></p> <p>エ <u>知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。</u></p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア <u>経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</u></p> <p>イ <u>自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。</u></p> <p>ウ <u>語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。</u></p> <p>エ <u>文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに<u>気付き、正すこと。</u></u></p> <p>(新設)</p> <p>オ <u>書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。</u></p>	<p>第1 目 標</p> <p>国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p>第2 各学年の目標及び内容</p> <p>〔第1学年及び第2学年〕</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 相手に応じ、<u>経験した事</u>などについて、事柄の順序を考えながら話す<u>ことや大事な事を落とさないように聞くことができるようにするとともに、話し合おうとする態度</u>を育てる。</p> <p>(2) 経験した事や想像した事などについて、<u>順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度</u>を育てる。</p> <p>(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに<u>気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度</u>を育てる。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 話すこと・聞くこと</p> <p>(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>ア <u>知らせたい事を選び、事柄の順序を考えながら、相手に分かるように話すこと。</u></p> <p>イ <u>大事な事を落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。</u></p> <p>ウ <u>身近な事柄について、話題に沿って、話し合うこと。</u></p> <p>B 書くこと</p> <p>(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。</p> <p>(削除)</p> <p>ア <u>相手や目的を考えながら、書くこと。</u></p> <p>イ <u>書こうとする題材に必要な事柄を集めること。</u></p> <p>ウ <u>自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考えること。</u></p> <p>エ <u>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書くこと。</u></p> <p>オ <u>文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに<u>注意すること。</u></u></p>

(移動) 3 内容の取扱い(1) 「B書くこと」から

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(新設)

ア 想像したことなどを文章に書くこと。

イ 経験したことを報告する文章や観察したことを記録する文章などを書くこと。

(新設)

ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。

(新設)

エ 紹介したいことをメモにまとめたり、文章に書いたりすること。

オ 伝えたいことを簡単な手紙に書くこと。

C 読むこと

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。

イ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

(新設)

エ 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。

(新設)

オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

カ 楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。

(移動) 3 内容の取扱い(1) 「C読むこと」から

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(新設)

ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと。

イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりすること。

ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。

エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。

オ 読んだ本について、好きなどころを紹介すること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

(新設)

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(新設)

(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(新設)

(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。

(新設)

(イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと。

(新設)

(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

(エ) 長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

(オ) 句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。

(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること。

ウ 文字に関する事項

(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。

C 読むこと

(1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 易しい読み物に興味をもち、読むこと。

イ 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。

エ 語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。

〔言語事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 発音・発声に関する事項

(ア) 姿勢、口形などに注意して、はっきりした発音で話すこと。

イ 文字に関する事項

(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語を文や文章の中で使うこと。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書くようにすること。

(ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

ウ 表記に関する事項

(ア) 長音、拗(よう)音、促音、撥(はつ)音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。

(イ) 句読点の打ち方や、かぎ(「」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。

エ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

(イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(ロ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。

イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

【第3学年及び第4学年】

1 目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

(新設)

ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

(新設)

ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。

エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

オ 言葉遣いに関する事項

(ア) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話し、また、敬体で書かれた文章に慣れること。

- (2) 文字に関する事項の指導のうち、書写については、次の事項を指導する。

ア 書写に関する事項

(ア) 姿勢や用具の持ち方を正しくして丁寧に書くこと。

(イ) 点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」に示す事項の指導は、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

「A話すこと・聞くこと」

尋ねたり応答したりすること、自分が体験した事などについて話をする事、友達の話や新聞記事などを聞くこと、読んだ本の中で興味をもったところなどを紹介することなど

「B書くこと」

絵に言葉を入れること、伝えたい事を簡単な手紙などに書くこと、先生や身近な人などに尋ねた事をまとめること、観察した事を文などに表すことなど

「C読むこと」

昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと、絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと、自分の読みたい本を探して読むことなど

(削除)

- (2) 第1学年において2の内容を指導するに当たっては、入門期であることを考慮し、当該学年にふさわしい指導を行うこと。その際、(1)の言語活動のうち、尋ねたり応答したりすること、絵に言葉を入れること、昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと、絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むことなどを主として取り上げるよう配慮すること。

【第3学年及び第4学年】

1 目標

- (1) 相手や目的に応じ、調べた事などについて、筋道を立てて話すことや話の中心に気を付けて聞くことができるようにするとともに、進んで話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係などを工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 伝えたい事を選び、自分の考えが分かるように筋道を立てて、相手や目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめること。

ウ 互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うこと。

(移動) 3 内容の取扱い(1) 「A話すこと・聞くこと」から

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。

(新設)

イ 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

(新設)

ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。

(移動) [言語事項] (1)―オ―(イ)から

イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。

ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。

(移動) [言語事項] (1)―カ―(ア)から

エ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。

(新設)

カ 書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。

(移動) 3 内容の取扱い(1) 「B書くこと」から

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(新設)

ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりすること。

イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること。

(新設)

ウ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書くこと。

エ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

(移動) 3 内容の取扱い(1) 「C読むこと」から

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(新設)

ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。

(新設)

イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。

(新設)

ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。

B 書くこと

(1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 相手や目的に応じて、適切に書くこと。

イ 書く必要のある事柄を収集したり選択したりすること。

ウ 自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考えること。

エ 書こうとする事の中心を明確にしながら、段落と段落との続き方に注意して書くこと。

オ 文章のよいところを見付けたり、間違いなどを正したりすること。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。

ウ 場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。

エ 読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

オ 目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意したりしながら文章を読むこと。

カ 書かれている内容の中心や場面の様子がよく分かるように声に出して読むこと。

(新設)

エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。

オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

(新設)

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(新設)

(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。

(新設)

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(新設)

(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

(新設)

(イ) 漢字と仮名を用いた表記などに関心をもつこと。

(ロ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。

(ハ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。

(ニ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

(ホ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

(ケ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

(コ) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

ウ 文字に関する事項

(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(ロ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。

イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

〔言語事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 発音・発声に関する事項

(ア) その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すこと。

イ 文字に関する事項

(ア) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

(イ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。

(ロ) 第4学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

ウ 表記に関する事項

(ア) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと。

(イ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと。

エ 語句に関する事項

(ア) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

(イ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解すること。

オ 文及び文章の構成に関する事項

(ア) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。

(イ) 文章全体における段落の役割を理解すること。

(ロ) 文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うこと。

カ 言葉遣いに関する事項

(ア) 相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話し、また、文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。

(2) 文字に関する事項の指導のうち、書写については、次の事項を指導する。

ア 書写に関する事項

(ア) 文字の組立て方に注意して、文字の形を整えて書くこと。

(イ) 文字の大きさや配列に注意して書くこと。

(ロ) 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方に注意しながら、文字の形を整えて書くこと。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」に示す事項の指導は、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

「A話すこと・聞くこと」

身近な話題についてスピーチをすること、要点などをメモに取りながら聞くこと、身近な出来事や調べた事柄について説明したり報告したりすることなど

「B書くこと」

手紙を書くこと、自分の疑問に思った事などについて調べてまとめること、経験した事を記録文や学級新聞などに表すことなど

「C読むこと」

読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと、疑問に思った事などについて関係のある図書資料を探して読むことなど

【第5学年及び第6学年】

1 目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考え、文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

(新設)

ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。

イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

(移動)【言語事項】(1)ーカー(イ)から

ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。

エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

3 内容の取扱い(1)「A話すこと・聞くこと」から

- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。

イ 調べたことやまとめたことについて、討論などを行うこと。

(新設)

ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

B 書くこと

- (1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。

イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

(新設)

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

(新設)

カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。

- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(新設)

ア 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

イ 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。

(新設)

ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

【第5学年及び第6学年】

1 目標

- (1) 目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、考えた事などを筋道を立てて文章に書くことができるようにするとともに、効果的に表現しようとする態度を育てる。
- (3) 目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 考えた事や自分の意図が分かるように話の組立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

B 書くこと

- (1) 書くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと。

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

ウ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えること。

エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

(新設)

- ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
- イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
- ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
- エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

(新設)

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

(新設)

カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

(移動) 3 内容の取扱い(1)「C読むこと」から

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

(新設)

- ア 伝記を読み、自分の生き方について考えること。
- イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。

(新設)

ウ 編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。

(新設)

エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

(新設)

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(移動)〔言語事項〕(1)－エ－(7)から

(7) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(新設)

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(新設)

(7) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。

(新設)

(イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

(ロ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

(新設)

(オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること。

(カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

(ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(新設)

(ケ) 比喩(ゆ)や反復などの表現の工夫に気付くこと。

ウ 文字に関する事項

(7) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

C 読むこと

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。
- イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。
- ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。
- エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。
- オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

〔言語事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 文字に関する事項

(7) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くようにすること。

(イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。

イ 表記に関する事項

(7) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。

ウ 語句に関する事項

(削除)

(7) 語句に関する類別の理解を深めること。

(イ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと。

(削除)

(ウ) 表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。

(エ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

エ 文語調の文章に関する事項

(7) 易しい文語調の文章を音読し、文語の調子に親しむこと。

オ 文及び文章の構成に関する事項

(7) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。

カ 言葉遣いに関する事項

(7) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。

(新設)

イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。

ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1. 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導することができるようにすること。

(2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に示す事項については、相互に密接に関連付けて指導するようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。その際、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、児童が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(3) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、計画的に指導する機会が得られるように、第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。

(4) 第2の各学年の内容の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動をなるべく多くすること。

(5) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。学校図書館の利用に際しては、本の題名や種類などに注目したり、索引を利用して検索をしたりするなどにより、必要な本や資料を選ぶことができるように指導すること。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。

(6) 低学年においては、生活科などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。特に第1学年においては、幼稚園教育における言葉に関する内容などとの関連を考慮すること。

(新設)

(7) 第1章総則の第1の2及び第3章道徳の第1に示す道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

2. 第2の各学年の内容の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、

(イ) 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。

(2) 文字に関する事項の指導のうち、書写については、次の事項を指導する。

ア 書写に関する事項

(ア) 文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くこと。

(イ) 毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと。

(削除)

(ウ) 毛筆を使用して、字配りよく書くこと。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」に示す事項の指導は、例えば次のような言語活動を通して指導するものとする。

「A話すこと・聞くこと」

自分の考えを資料を提示しながらスピーチをすること、目的意識をもって友達の考えを聞くこと、調べた事やまとめた事を話し合うことなど

「B書くこと」

礼状や依頼状などの手紙を書くこと、自分の課題について調べてまとめた文章に表すこと、経験した事をまとめた記録や報告にすることなど

「C読むこと」

読書発表会を行うこと、自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むことなど

第3 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりして、弾力的に指導することができるようにすること。

(2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」に示す事項については、それぞれが関連的に指導されるようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるようにすること。

(3) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の言語活動の指導に当たっては、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

(4) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、日常生活の中に話題を求め、意図的、計画的に指導する機会が得られるようにし、第1学年から第4学年までは年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を開発したり活用したりするなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。

(5) 第2の各学年の内容の「B書くこと」に関する指導については、文章による表現の基礎的な能力を養うことに重点を置くこと。また、文章を書くことを主とする指導については、第1学年及び第2学年では年間90単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当するようにするとともに、実際に文章を書く活動をなるべく多くしたり特に取り上げて指導したりすること。

(6) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他の教科における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。なお、児童の読む図書については、人間形成のため幅広く、偏りがないように配慮して選定すること。

(7) 低学年においては、生活科などとの関連を図り、指導の効果を高めるようにすること。

2 第2の各学年の内容の「言語事項」については、次のとおり取り扱うものとする。

次のとおり取り扱うものとする。

(1) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

ア 特定の事項をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要な場合については、特にそれだけを取り上げて学習させるよう配慮すること。

(新設)

イ 伝統的な言語文化に関する指導については、各学年で行い、古典に親しめるよう配慮すること。

ウ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

(7) 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。

(4) 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字については、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担に配慮しつつ提示することができること。

(5) 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

(2) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行うこと。また、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、各学年年間30単位時間程度を配当すること。

3. 教材については、次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと能力及び読むこと能力などを偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。

ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

エ 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。

オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

ク 我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。

ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。

コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(3) 第2の各学年の内容の「C読むこと」の教材については、説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。

※「別表 学年別漢字配当表」は、変更がないため省略します。

(1) 音声、文字、文法的事項などのうち繰り返して学習させることが必要なものについては、特にそれだけを取り上げて学習させるよう工夫すること。

(2) 毛筆を使用する書写の指導は、第3学年以上の各学年で行い、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導し、文字を正しく整えて書くことができるようにすること。また、毛筆を使用する書写の指導に配当する授業時数は、各学年年間30単位時間程度とすること。なお、硬筆についても、毛筆との関連を図りながら、特に取り上げて指導するよう配慮すること。

(3) 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。

ア 学年ごとに配当されている漢字は、児童の学習負担に配慮しつつ、必要に応じて、当該学年以前の学年又は当該学年以降の学年において指導することもできること。

イ 当該学年より後の学年に配当されている漢字及びそれ以外の漢字を必要に応じて提示する場合は、振り仮名を付けるなど、児童の学習負担が過重にならないよう配慮すること。

ウ 漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと能力及び読むこと能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の3の内容の取扱いに掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。

ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

エ 科学的、論理的な見方や考え方を育て、視野を広げるのに役立つこと。

オ 生活を明るくし、強く正しく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 生命を尊重し、他人を思いやる心を育てるのに役立つこと。

キ 自然を愛し、美しいものに感動する心を育てるのに役立つこと。

ク 我が国の文化と伝統に対する理解と愛情を育てるのに役立つこと。

ケ 日本人としての自覚をもって国を愛し、国家、社会の発展を願う態度を育てるのに役立つこと。

コ 世界の風土や文化などに理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(3) 第2の各学年の内容の「C読むこと」の教材については、説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。